新しい時代の「宇都宮市の農業」

変わりつつある農家、農業と農商工連携

今回は、宇都宮市における農業の新しい波を取材しました。宇都宮市の農業は産業別生産高で見れば少ないものの、農作が盛んな地域です。土壌や環境、天候などが農業に適しているため、さまざまな農作物が作られています。そんな農業を支援する行政の取組と、農家の声をご紹介します。

◎国内外の需要フロンティアの拡大
◎需要と供給をつなぐバリューチェーンの構築
◎生産現場の強化
◎農林漁村を将来世代に継承するための多面的機能の維持・発揮

農業をめぐる現状と変化のきざし

私たちの生活の柱は「衣食住」。そのうち「食」は、生命を維持し健康な生活を送るためにもっとも重要なものです。

食を支えている産業にはさまざまな分野がありますが、中心になるのはやはり「生産者」＝農林水産業でしょう。

宇都宮市の農業は、どのような現状なのでしょうか。平成26年に宇都宮市が策定した『第2次宇都宮市食料・農業・農村基本計画』（以下「市基本計画」）などを参考にしながら、現在の農業の姿をかんたんに見ていきましょう。

最近まで、農業は「食料自給率の低下」「高齢化」「後継者不足」など、どちらかといえば暗い話題が先行する産業でした。しかし国際的な経済状況の変化などにより、政府も農業再生に力を入れるようになっています。

平成21年に農地の効率的な利用促進をめざして農地法が改正され、他産業・業種からの農業参入が容易に行えるようになりました（今年度から、さらに要件が緩和されています）。また平成22年の「食料・農業・農村基本計画」や平成23年の「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」、平成25年の「農林水産業・地域の活力創造プラン」など、さまざまな施策が次々と発表、実施されています。

「農林水産業・地域の活力創造プラン」では「農業・農村全体の所得を今後10年間で倍増させる」ことを目標に掲げ、

図1 宇都宮市の基本施策　「農業王国うつのみや」の実現！

「生産力」の向上

地域に必要な担い手の確保
◎地域の中心となる担い手の確保
◎将来の担い手の確保
◎女性や高齢者等の農業への参画促進

強くやさしい担い手の育成
◎農業経営力の向上
◎効率的な生産技術の導入促進
◎安全と環境に配慮した農業の推進

生産性・効率性の高い生産基盤の整備
◎戦略的な農地利用の推進
◎優良農地の確保・保全
◎農業生産施設等の効率化

「販売力」の向上

市民と農家を結ぶ地産地消の強化
◎市内マーケティングの強化
◎手に入れやすい仕組みづくり
◎市民が支える仕組みづくり

流通・販売戦略の構築
◎多様な販売チャネルの導出
◎安全・安心の見える化
◎情報発信力の強化

市場を意識した農産物の生産振興
◎ブランド産品の生産振興
◎需要に応じた農産物の生産振興

「地域力」の向上

持続可能な営農環境の形成
◎多面的機能の維持・向上
◎農村生活環境の整備・保全

農業・農村の魅力発信
◎農育・食育の推進
◎都市と農村の交流促進

「農作物のデパート」宇都宮

宇都宮市の農業の概況について、市基本計画では、

「首都圏や都市近郊に位置するという地理的な優位性や鬼怒川水系を中心とした良好な水田地帯、市域東西部の台地畑作地帯で形成されるおおよそ1万haに及ぶ広大な経営耕地を基盤とした有利な生産条件を生かしながら、水稲を基幹作物として、園芸、花き、果樹、畜産など多様な農業が展開され、市内、県内はもとより、首都圏への農産物の供給基地としての役割を果たしています」（第2章）とまとめています。

そして、宇都宮市の農業の強みとして、

◎大きな生産規模と高い圃場整備率
◎大都市圏に近い立地と幅広い生産品目
◎他産業との連携体制の確立と食品関連企業や多様な教育機関の立地

などを挙げています。

概況と強みについて、市経済部農業企画課企画調整グループの駒場聖主任は、

「宇都宮市は平地が多く、土地も肥沃です。住んでいる方でしたらお分かりいただけると思いますが、気候も比較的温和で、農業に適した地域なのです。

宇都宮市の農業生産の特徴としては、穀類が多いこと。つまり米が主流で、耕作地の九割は水田です。ただ土地柄としては多様な耕作が可能です。実際『農作物のデパート』と言われているほど、さまざまな農作物が作られているのです」と言います。

気候・土壌・日照・水など、農業に必要とされる条件がいずれも満たされているのが、宇都宮市――そう言っていいでしょう。

市基本計画では、基本施策で「生産力」「販売力」「地域力」の向上を掲げています。その内容は、次世代の「宇都宮の農業」を担う人材の確保や育成、それを支える農地や生産施設の整備、農家と市民をつなぐ地産地消の強化、他地域への販売の拡大や販売チャネルの多様化、ブランド農産物の生産振興、農村生活環境の整備、農育・食育の推進などです（図1）。

「いま、農産物のブランド推進を、JAとともに行っています。宇都宮にはいろいろな農産物があり、いずれも高い評価をいただいていますが、逆に『宇都宮といえば、これだ！』というブランド力の高い農産物が少ないのです。

いま力を入れているのは、新規就農者への支援事業と、イチゴやトマトなど施設園芸への支援です。特に新規就農者を増やすことは、急務だと考えています。それには農業が産業として魅力的でなくてはならないので、収入増加につながる生産コスト削減や機械化導入支援など、さまざまな方向から事業を行っています」（駒場主任）

宇都宮の代表的な農作物は？

宇都宮市の代表的な農作物には何があるのでしょうか。図2「宇都宮市の主な農産物」をみていただければお分かりのとおり、米や穀類の他にさまざまな野菜が作られています。うつのみや農産物ブランド推進協議会と宇都宮市地産地消推進会議が発行しているパンフレット『宇都宮の旬の味』をもとに、いくつかご紹介しましょう。

【トマト】

宇都宮のトマトは通年で栽培されており、甘さと酸味のバランスがとれているのが特徴です。特に形が良く、また糖度が高い（7度以上）のものは「プレミアム7」というブランドで出荷されています。

【梨】

宇都宮では「幸水（こうすい）」「豊水（ほうすい）」それに栃木県が育成した「にっこり」などが多く栽培されています。「にっこり」は超大玉で味もよく、長期間保存ができるので、贈答品としても人気があります。「幸水」「豊水」のうち糖度13度以上のものを「プレミアム13」としてブランド化しています。

【いちご】

栃木県を代表する農産物のひとつが、いちごです。生産日本一の座は揺るぎないものになっています。宇都宮市でもいちごの生産は盛んであり、主力の「とちおとめ」や「スカイベリー」、また、大谷地域の大谷石採石場跡地にある地下水（冷熱エネルギー）を利用した「大谷夏いちご」の栽培も進んでいます。

【アスパラガス】

アスパラガスにはホワイトアスパラガスとグリーンアスパラガスがあり、宇都宮では主

図2 宇都宮市の主な農畜産物（平成27年産）

農産物	栽培面積	出荷量	生産額
米	4,901ha	20,276t	3,465百万円
小麦	353ha	1,289t	15百万円
二条大麦	514ha	2,172t	186百万円
大豆	189ha	301t	23百万円
いちご	38ha	1,531t	1,640百万円
トマト	30ha	3,978t※1	1,345百万円※1
にら	12ha	233t	127百万円
なす	2ha	91t	26百万円
きゅうり	3ha	246t	71百万円
ねぎ	11ha	189t	41百万円
アスパラガス	7.5ha	113t	124百万円
たまねぎ	8.1ha	333t	46百万円
梨	197ha	4,003t※1	1,120百万円※1

※1は上三川町分を含む
※2 直売出荷は含まれていない

主な畜産	出荷戸数	出荷頭数	販売額
宇都宮牛	16戸	469頭	535百万円

に後者が栽培されています。アスパラガスは植えてから収穫まで数年かかりますが、同じ株から十年ほどは収穫できるため、順調に行けばメリットも大きな作物です。レストランだけでなく家庭の食卓でも楽しまれています。

これらの他にもさまざまな農作物があります。変わったところではマンゴーやレモン、ブルーベリーなども生産されています。また数は多くありませんが、りんごの果樹園もあります。また、柚子も知名度が上がっています。

また、西洋野菜農家も増えています。ルッコラ、ズッキーニの花、ハーブなどさまざまな西洋野菜が栽培され、出荷量も増えてきています。

農商工連携の新しいかたちをつくる

商工業との連携や農業ファン作りも、これからの農業振興にとって重要な課題です。

平成19年に発足し、翌年から活動を開始した「うつのみやアグリネットワーク」（以下「アグリネットワーク」）は、宇都宮市で生産される農産物の需要拡大と産業の振興を目的に、宇都宮の農業資源の活用に興味を持つ農業者や商工業者を会員として組織された団体です。

宇都宮市経済部農林生産流通課農産物マーケティンググループの谷田部雄介主任主事に、アグリネットワークについて説明していただきました。

「アグリネットワークは、JAうつのみやと宇都宮商工会議所、それに宇都宮市が事務局となり、アグリビジネス創出に造詣の深い産業関係者や学術有識者などをメンバーとする運営委員会が事業の運営をしています。事業内容は、農産物を使った商品開発を支援することです。

◎新商品・サービスの創出支援
◎重点品目のビジネスチャンスを拡大
◎農業者と商工業者の交流を促進
◎ビジネスマッチングを支援
◎消費者への周知・広報を支援

生産から流通、販売、宣伝など幅広く網羅することで、一貫した流れの中で農商工連携をめざしています」

設立から現在まで、アグリネットワークの活動からいくつもの事業プランが生まれました。事業プランが提出されると、審査部会や運営委員会で審査されます。

「年間、6～7件は採択されています。設立から現在までに、80件以上の案件が採択され、事業化に取り組んできました」と谷田部主任主事。

農商工連携で農業の魅力がアップすれば、農業をめざす人も増えるでしょう。また、従来にない考え方の新しい農業も登場すると期待できます。

「そのためには、会員数をさらに増やし、すそ野を広げる努力をしていかなくてはなりません。意欲ある会員メンバーばかりですから、参加するだけでも刺激になると思います。農業者も、商工業者も、少しでも興味を持ったならば、ぜひ参加してみてください」とも話してくださいました。

アグリネットワークでは、事業化を進める際に、専門のアドバイザーがさまざまな支援を行っているほか、事業化の成果を掲載した『うつのみやまるかじり』という商品カタログを発行しています。2015年版に掲載されているのは、全部で27商品。「宇都宮カクテル」（農産物+お酒）や「おもてなし紅茶」（オリジナルブレンド紅茶+梨）、「宮柚子のチーズケーキ」（柚子をつかったチーズケーキ）など、魅力たっぷりの商品ばかりです。アグリネットワークの活動は、着実に、新しい農商工連携を開拓しつつあるようです。

農家の声 >>> 1

常に明るく、元気にチャレンジしています

山口果樹園　代表　山口幸夫さん

山口果樹園のみなさん。左から代表の幸夫さん、奥様の美輝さん、娘の郁美さんと孫の紬ちゃん、娘婿の慧さん

私ども「山口果樹園」は、祖父の代からの農家です。祖父は、このあたりのトマト栽培の先がけでした。父の代に梨の生産に大きく舵をきり、私がそれを受け継ぎました。現在はほぼ梨が主体ですが、今年から娘夫婦がブルーベリーとキウイフルーツ、野菜の経営を始めたところです。また、来年にはシャインマスカットの販売も始める予定です。将来的には、総合果樹園をめざしています。法人化も検討していて、できれば数年後には実現したいですね。

私どもの梨は、全国的に人気の高い「幸水」「豊水」がメインです。これに加えて「にっこり」や、国が育成した品種「あきづき」も生産しています。「にっこり」は栃木県産の品種ですから大切に生産しています。栽培面積は当園では三割近くしめていますが、栃木県としては一割くらいでしょうか。まだまだ知名度が上がってきていませんので……ただ、海外での販促がずいぶん進んでいるようですから、今後は海外向けに需要が伸びるかもしれません。

私どもの出荷先は、JAうつのみや経由で東京都、埼玉県、神奈川県などの首都圏が中心です。遠い所では、青森県へも出荷しています。その他に直販もしています。インターネット販売や、じかに買いに来てくださるお客さまも多くいます。インターネット販売は沖縄県や北海道など、遠隔地のお客さまが多いですね。その多くがリピーターです。だからこそ、ファンになっていただいた方を大切にしています。口コミは重要ですから。

金額でいえば、直販がどんどん増えていて、今ではJA経由の出荷分と同じくらいになりつつあるんです。数年後には逆転するかも知れないと思っています。これからの農業経営には、そういうことも意識しつつやっていかなくては、ダメだと感じますね。

農作物だけでなく、そこから商品を作って販売もしています。ジュースやシロップは、おかげさまで人気商品となっています。またアグリネットワークの支援で「にっこり」を使った「おもてなし紅茶」を、紅茶専門店Y's Teaさんとコラボ開発しています。その他にもいろいろな農商工連携に関わっています。清原地区の若手農商工業者による「Zutto（ずっと）きよはら」というグループが、清原の農作物を使った商品開発に取り組んでいますが、私どもでもいろいろ支援させていただいています。

山口果樹園の梨

心がけていることは「つねに遊び心を大切にチャレンジ、元気に楽しく」ということ。明るくしていないと、人はついてきてくれません。若い人がどんどん農業に参入してくれるような環境づくりをめざしてがんばっています。毎年、研修生や実習生も受け入れているんですよ。

人のつながりは、本当に大切だと感じています。直販で売上があがるのも、人のつながりがしっかりしているからこそだと思っています。地域の中で私どもがこうして果樹園をやっていけるのも、人とのつながりがあるからです。だから、自分のエゴで経営していくのではなく、周囲の意見に耳を傾けてやっていくことが重要ですね。

山口果樹園
宇都宮市上籠谷町2937
☎028-667-0502
http://yamaguchi-kajuen.com

農家の声 >>> 2

多品種少量生産で野菜作りに取り組んでいます

畑市場（はるいちば）　代表　山﨑章仁さん

「畑市場」という屋号で活動しています。法人化はまだしていません。しばらく先になると思います。

私の祖父の代まではここ（雀宮）で兼業農家をやっていたのですが、その後廃業しました。私が6年前に再び始めました。だから、現在は自分の土地はゼロ。すべて借りてやっています。

もともと宇都宮でシステムエンジニアをやっていたのですが、その後沖縄に移り、農家の手伝いをする中で農業への欲求が高まりました。それで地元に戻って自分の農業をスタートさせたのです。

農業の勉強は、沖縄での体験と、その他はほぼ独学です。農家での研修も少ししましたが、結果的には本やインターネットなどを参考に、自己流の農業を始めました。

生産品目は野菜だけで、多品種少量生産です。年間で、80～100品種を生産販売しています。多品種農家でも、ここまで多いところはあまり無いようですね。作っているのは一般的なレストランなどで使う西洋野菜が多いのが特徴です。主にアーティーチョーク（西洋あざみ）やビーツ（さとう大根の一種）、チコリ（ほろ苦さが特徴の菊科植物）、フェンネル（香辛料やハーブとして使われる植物）などがあげられますが、こうした農産物は、主に東京のレストランに納めています。

多品種になったのは、いろいろな種類を手がけることが楽しそうだったことと、東京のレストランの需要を期待したからです。よほど大きなレストランでなければ、一度に必要とする野菜の量は限られますが、その代わりいろいろな種類を求められます。それに対応することで、ビジネスチャンスになると考えました。

販売はほぼ直販です。県内では「あぜみち」さんなどの農作物直販所に納入しています。今後の課題の一つは、宇都宮でのお客さまの拡大ですね。そのためにも、実家の敷地に直販所を作ることを検討しています。一般のお客さまだけでなく、地元のレストランの方も買いに来ていただけるようにすれば、珍しい野菜でも実際に確認した上で購入していただけます。

今は自分のところだけで精一杯ですが、今後のために農家仲間との勉強会なども始めたところです。これからは横のネットワークも重要だと考えているので、少しずつ、無理のない範囲で、やっていきたいですね。

収穫期のなす畑

畑市場（はるいちば）
宇都宮市雀の宮1-3-21
☎090-7632-9140
Facebook：畑市場